

054

フードトラック事業者のネットワークを活用して被災地に食事を届ける

取組主体

株式会社 Mellow

従業員数

30人

想定災害

地震等

実施地域

千葉県

- フードトラック事業者を組織化し、フードトラックが災害時に短時間で効率的に被災地へ駆けつけられる仕組みを構築。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

フードトラックを組織化して被災地へ温かい食事を届ける

- ビル敷地内の空き地とそこで営業するフードトラック事業者をマッチングさせる事業を行う株式会社 Mellow の代表者は、フードトラックがあまり認知されていなかった 15 年以上前からこの業界に携わっていた。東日本大震災の際には、都内の複数のフードトラック事業者から炊き出しボランティアについて相談を受けたが、交通網の管理を含めた受け入れ体制の問題等から支援が実現しなかった。
- 被災地では、食事を作際に、食材があるのに設備がない、もしくはその逆の理由から、調理ができない場合が多く発生する。一方、フードトラックは、平時にはオフィス街等でランチタイム営業を行っていることから、食材、設備を併せ持ち、発災時に被災地に素早く駆けつけ、被災者へ温かい食事を提供することができる。



被災地で温かい食事を提供するフードトラック

- 同社は、フードトラック事業者を組織化することで、有事の際に円滑にボランティア支援ができるようになると考え、令和元年に「フードトラック駆けつけ隊」を発足させた。この取組は災害時に支援要請のあった被災地域へフードトラック事業者が駆けつけるというものであり、約 100 店のフードトラック事業者が賛同した。
- 同社は、IT ツールを使用して短時間で効率的に被災地側の要望や状況をフードトラック事業者へ発信し、それに対する返答をもとに対応可能なフードトラック事業者を整理して各地へ派遣する。また、災害時の炊き出しには平時に比べて食材や人手が多く必要になるため、調理師専門学校や仲卸市場商店会と連携し、料理人や食材を確実に確保できるよう努めている。
- 同隊が結成された直後に発生した令和元年の台風 15 号の際、同社は、千葉県の被災地域の行政と連携し、32 社のフードトラック事業者を派遣した。現地に駆けつけた事業者は、のべ 4,000 食のカレーやパスタ等の温かい食事を無償提供した。



平時のネットワークを活用して、有事の際に迅速に被災地に駆けつける体制を構築

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- この取組は、オフィス街のビルの空地を活用したプラットフォーム「TLUNCH（トランチ）」により、平常時からフードトラック事業者のネットワークがあることにより成立している。
- 平時の事業を通じて、フードトラック事業者の特性や食事の提供能力に関する情報を把握することで、災害時に受け入れる側及び支援する側にとって安心・安全で、的確な支援を実現している。

3 現状の課題・今後の展開等

- 同社は、今後はビルの空地に限らず日常的に活動できる場所を増やすことにより、フードトラックの支援体制の基盤を築いていきたいと考えている。
- 食事を提供するための材料調達や、ボランティアを継続するための資金調達について課題があるため、企業や行政と連携していくことでフードトラック事業者が無理なくボランティアを続けられる環境を整える方針である。
- また、同社は、行政、NPO、企業、フードトラック事業者等の関係者が無駄なくコミュニケーションできる仕組みを作ること、災害時の情報をなるべく早く伝え、「ボランティアをしたいという想い」と「ボランティアを受けたいという人」を結びつけたいと考えている。

担当者の声

- 首都直下型地震が起こった場合、食糧不足は最大で 3,400 万食と言われており、食料確保は大きな課題と言えます。これに対応するために災害が起きる前にどのようなことができるのか、事前にシミュレーションしておくことが重要です。
- 今後は行政や NPO、または企業と連携していくことで、フードトラック事業者と Mellow だけでは実現できない、企業の垣根を越えた防災時のネットワークを構築していきたいと考えています。

問合せ先

株式会社 Mellow 法人番号：4011001109668
TEL：03-6298-9331 FAX：03-6740-1650 E-Mail：contact@mellow.jp